

【企業】2024年度

「学修成果に関わる外部評価—学位プログラムの学修評価を把握するための企業調査—」 改善案
初年次教育課程

文責 水野真由美

記入年月日 2024年9月2日

社会人として身に付けて欲しい資質として、コミュニケーション能力という回答が多くあった。個の思いだけでなく周囲との関わり、協調性もあげられていた。職種を問わず、求められていることがわかる。プレゼンテーション能力やチームワークもあがっている。

2024年度から、「社会人基礎」が初年次の必修科目となったので、職場や社会で多様な人々と関わっていくための基礎能力を理解・修得している。服飾表現学科では、「プレゼンテーション論」が必修となっている。既実践しているが、更に、内容を検討し、強化していく。

3学科共通必修の「学修基礎」では、グループディスカッションを実施している回も多くある。円滑なコミュニケーションと合せ、発信する上での、考える力、感じる力がつくよう、テーマ設定等、検討していくことが必要になってくる。将来の目標をできる限り具象化させ適応能力、技術を身につけていくということでは、卒業生による講演者の選考を検討していくことにする。

教養科目の編成で、素材の知見が重要とあげられていたが、初年次では、「服飾造形基礎Ⅰ・Ⅱ」が必修科目となっているので、制作前の素材選択方法については、持続可能性の知識として、服飾文化学科の学生だけでなく、全学生が環境に配慮していかなければならない。学生によるリサーチだけでなく、制作プロセスの中で、どう指導していくかまた、基本的な洋服に関する知識について縫製作業を経て習得する重要性もあげられていたので検討する。

「情報演習Ⅰ・Ⅱ」では、2025年度より一人一台タブレット世代が入学してくるが、高校によっても使用する機種やOSが異なっているため、PCを用いたアプリケーションの基本的な操作スキル習得に関しては当面は必須と考える。その上で、更に変化の激しいIT関連の動向を自ら知ろうとする姿勢など、学習者自らが能動的に思考するような取り組みになるような工夫や、リテラシー理解度を深める工夫が必要であると考え。具体的には、オンライン教材、日経パソコンEduやe-stat等で公開されている情報等を活用し、著作権等の問題やデジタル・シティズンシップの涵養等を目的として実施している内容を、今回の意見を踏まえながら調整や工夫を継続して行く。PC使用経験・ITに関するリテラシー理解度の個人差は依然大きい。(毎年度初回でアンケートを実施) 対応するためには、情報演習Ⅰ・Ⅱをそれぞれ通年にする、レベル別のクラス編成にするなど検討が必要だと考える。

コミュニケーションとしては、学生間だけでなく、教員と学生間も問われるので改善し、到達目標について、高い設定をとる回答もあった。評価方法についても多面的な評価項目を取り入れる等が回答にあった。今後、改善箇所がないか検討することを各担当者で検討する。

文責 主任 北折 貴子

安部智子・中村枝里子・設水彩加

記入年月日 2024年 8月 30日

意見：学生が身につけるべき資質・能力について…コミュニケーション能力

改善案：コミュニケーション能力はほとんどの方からご指摘があり、強化していかなければいけない部分だと感じた。2年生までの授業では教科書に沿った基礎的なことが多い為、どうしても受け身的な形になってしまう。しかし、オリジナルでの作品制作もあるため、自分の言葉で考えたことを伝えられるように日々の会話は大切にしたい。また、プレゼンテーションでは限られた時間の中でまとめて発表できるように指導していきたい。

3・4年の作品では各自のオリジナルな点やコンセプトを発表して、その後他の学生たちの意見を聞いている、しかし、なかなか意見が出ない傾向がある。今後は必ず意見を全員が言えるようにしていきたい。

意見：実務を意識した工業用ミシンを操作しての縫製技術について

改善案：教室内の工業用ミシンの数に限りはあるが、自由に使用出来る環境を今後も作っていきたい。また、1年次より基本的に使用しているのは職業用ミシンであるが、就職活動も視野に入れつつ、工業用ミシンの使い方も授業内で指導していきたいと思う。

【企業からの意見と改善案】

①学生が身につけるべき資質・能力について：

- ・創造力とデザイン力： 独自性と創造性が重要であり、新しいトレンドを生み出す力が求められるアパレル業界です。更に一般向けのアイテムに落とし込む思考力が求められます。
- ・コミュニケーション能力： チームでの協働や顧客とのやり取りが多いため、個の思いだけでなく、周囲との円滑なコミュニケーションが必要です。
- ・技術的スキル： パターンメイキングや縫製技術に加えて、デジタルデザインツールの使用能力が重要です。

①の改善案：デザインやパターンを考えるにあたり、現在どんなトレンドがあるか調査し、商品として売り出すことを前提としてアイテムの考案・制作をするよう指導する。また、「自分が何を思い、考え、制作するのか」「他者に何を伝えたいのか」をプレゼンテーションやグループワークを通してコミュニケーション能力を高め、更に一連の過程から忍耐力、ストレスコントロール力、変化へ対応力、自ら考える力を向上していきたい。デジタルデザインツールに関しては「Photoshop」「Illustrator」「アパレル CAD」がコース必修科目の中に取り入れられている。継続して行う。

②教育課程の編成と教育方法について：

- ・実践的なスキルの習得： デザイン、パターンメイキング、縫製技術に加えて、今後は デジタルツールの使用について、実践的なカリキュラムが求められると思われます。

③画像生成 AI やファッション 3D モデリングのスキルを身に付けた人材育成：

画像生成 AI やファッション 3D モデリングのスキルは、今後のアパレル業界で非常に重要な 役割を果たすと考えられます。これらのスキルを持つ人材は、デザインプロセスの効率化や新しい表現方法の開発に貢献できると思われます。

- ・現在の描く技術やパターンを構築するというアナログな技術が疎かになってしまわないよう留意が必要であると感じます。AI や 3D モデリングがこの先人間の技術にとって替わるようになるにはまだ時間がかかるものと思っております。しっかりとした技術を学んだうえプラスで新しい技術・スキルを身に付けていくことが重要だと思います。

②③の改善案：2025 年度よりコース必修で 3D モデリング (CLO) の授業が開講されるため、従来の「Photoshop」「Illustrator」「アパレル CAD」等のデジタルツールから更に表現の幅が広がることを期待できる。デザイン、パターンの理論や縫製、素材の知識を大切にし、それらを生かす形で 3D モデリングのスキル向上、新しい表現方法の習得を目指す。

※2025 年度よりコースの必修科目に廃止・新設・時間数の変更あり。現在実施している内容及び改善案については 2025 年度からの科目に取り入れて実施する。

■頂いたご意見

①意識を高める

- ・課題としてではなく自分事として捉え消化し、考え、感じ、想像すること
- ・将来の目標をできる限り具現化し、適応した能力、技術を身に付けて行く
- ・PDCA 検証能力（客観的主観的見解）
- ・外部アドバイザーのような存在とその評価
- ・コミュニケーション能力（表現、表情、所作、対話、接し方、距離）
- ・チームでの成果

②知識を得る

- ・トレンドと生地の関係・素材の知見・環境に配慮した素材選びや製造プロセスの知識
- ・アナログ的な手法と生成 AI 基礎

①について、意識を高めるために「自分事」という主体的に物事に取り組める仕組みをつくることが重要だと考えます。本コースは制作実習と演習・講義によるアクティブラーニングを行っていると言えます。3年次の制作では外部の方に作品を見ていただくことで、学生も期待と緊張感をもって制作をしている姿が伺えます。また、制作後は振り返りをするようにしていますがまだまだ改善、方法の見直しを行っています。改めて、課題の目的を明確にした上で、学生自身が目標を設定し、自発的に行動できるように促したいと思います。また、コミュニケーション力を高めるための課題は行っていますが、教員とのディスカッションや仲間と協働が行えるよう、チームで作品を制作するなどの課題を取り入れたいと思います。

②の必要な知識については、素材の知識の必要性についてご意見を頂きました。講義科目だけでなく、素材を扱う制作課題の中に素材との関連にも触れ、学生がより理解を深められるような内容にしていきたいと思います。

Ωこの数年間、企業側からの指摘の中で、就学期間において特に身につけて欲しい能力として、最も多く見られたのが、コミュニケーション能力に関する事柄であった。それぞれの職種（総合職・技術職・販売職）においてもコミュニケーション能力を身につける必要性を挙げていた。

それに伴い、本コースでは、「ファッションプロダクトデザインゼミ」（3年次）や「卒業制作」（4年次）の中にグループ制作をより効果的に導入することによりコミュニケーション能力の更なる増進を目指し授業の展開を行っている。現在進行中である。

本コースでは、以下5項目の課題点を設定し、コミュニケーションの果す役割と成果について正しい理解を得られるよう指導に力を入れている。

1. チームワーク：チーム内での円滑なコミュニケーション、他のメンバーと情報を共有し、協力して問題を解決する能力が求められる。
2. 対人スキル：相手の意見を尊重し、効果的に自身の考えを伝える能力が必要となる。
3. フィードバックの受け入れ：自分の意見だけでなく、他者からのフィードバックを受け入れ、改善に繋げる姿勢も重要となる。
4. プレゼンテーション：作品に対する、テーマやコンセプトについてグループ内で徹底的に話し合いを行い、自分の考えを明確にし、それを他者に伝える力を養う。
5. 問題解決能力：コミュニケーションを通じて問題を特定し、最善の解決策を導き出せるよう発想の転換を促す柔軟性を身に付け忍耐力を鍛える。

また、協同制作は必ずしもプラスの面だけではないが、敢えて継続して行なっている理由がある。他のもの作り同様プロダクトデザインに関わる上で特に重要なのが以下の実践面に於いて想起される事柄である。自ら動くことで得られる市場の動向とトレンド性、直接見たり触れ無ければ感じとることの不可能な設備や材料の特性。工場の技術者や職人さんからの最新設備や技術に関する情報など。これらの情報を手に入れるためにはコミュニケーション力は絶対的に必要である。個人的に制作する場合でも全く同じである。これらの事柄を踏まえコミュニケーション能力の育成に役立てたい。企業が求める人材には、これらのスキルを駆使し、組織全体の成果を向上させることが期待されている。その中でコミュニケーション能力は、単に言葉を交わすだけでなく、相手を理解し、相互の信頼性を高め、より効果的にもものづくり(仕事)に反映できるための鍵となるものである。全体的にはコミュニケーションの問題に限らず、社会的な評価と要請に柔軟に対応し、本学の卒業生が一人でも多く社会で活躍できるよう一層の工夫が必要であると感じた。

企業外部評価において抽出されたポイントを整理すると、本コースとして以下の項目が重視される。指摘ポイントについて現状と改善策を以下にまとめている。

◆貴重な意見と重要と考える指摘ポイント

- ① 実社会想定のコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力の醸成
- ② チームワークや対人能力醸成、チーム協業と成果を追求する事の理解促進
- ③ 外部からの評価・表彰や協業など実社会との連動
- ④ 現場力へのアプローチが重要、販売現場を想定した川下分野の学習強化
- ⑤ 業界の職種理解促進、また幅広い業容に対応できる人材育成
- ⑥ アナログとデジタル、専門学習と人間力などバランスの取れた学びが大切
- ⑦ デジタルツールを活用した創造性強化
- ⑧ 被服の基礎知識・製造のプロセス・流通・コストなどの知識習得

◆現状把握と必要な対策へのアプローチ

上記項目について、①、②、③については「産学連携プロジェクト」「プレゼミ」「ブランドマネジメント論」等を中心としたコース構成科目を通じて企業連携を担保したグループワーク、ディベート、プレゼン機会は多く相応の対応が来ている。今後は更に内容のアップデートを積み重ね能力向上に繋げていきたい。また本コースではビジネスコンテストや学会活動を通じて②、③、⑦の知見獲得機会の創出を図っており、より一層の強化を図っていく。具体的には「ブランドマネジメント論」を通じて全員参画型にてチャレンジを行い、積極的にコンテストへの参画を実施していく。④、⑤については、企業訪問機会を増加させ、更に業務体験機会創出へのアプローチを協力企業と協議を進め2025年度より織り込んでいきたい。加えて「販売論」「販売論上級」を通じて、より現代的かつシーン想定による接客ロールプレイングの導入や販売現場の学習機会を組み上げていく。⑥、⑦については「プレゼミ」「産学連携」にて実践的な活用を通じて強化していく。⑧については「新製品開発論」にてカリキュラムの一部に組み入れて2025年度より運営を図っていく。

本年度の外部評価で示された指摘項目については、現況において相応に対応出来ている、あるいは改善進行中となる指摘箇所が多く、改めてコースの目指す方向性の整合性を再確認出来るものである。一方で、それらの達成度については未だ十分なものとは言えない。今後は、それぞれの内容の改善と深化が重要である事を認識させるものである。加えて本年度の企業外部評価を総括すると「人間形成」「基礎づくり」に対する指摘が多い事が分かる。今後は実社会が希求する「人材開発」について考察しながらコース特性と合致するリテラシー構築を目指し、引き続き改善努力を図っていきたい。

10社の人事関係者からの貴重なご意見をいただき、下記の改善案を考えている。

1. 学生が身につけるべき資質・能力について

多くの企業が「コミュニケーション能力」の重視をあげている。実際に学生を指導している中で「想像力の欠如」という点を日々強く感じており、自分の発言が相手にどういう影響があるのか考える点、チームでの声かけなど、全ての学年ですべておらず、成果に差が出てくる。2年「プレゼミ」でSNS発信、3年「イノベーションゼミ」においてEC運営とゼミは全てチームで結果を出していくが、採点の際に教員だけでなく、チームのメンバーによる採点を導入していこうと考えている。主体的でない学生（例えば留学生など）もチームに参加しているという意識を持たせていきたい。

2. 教育過程の編成と教育方法について

2年必修科目「データサイエンス」を魅力的と考えてもらっているが、この科目も基本は「マーケティング」である。どの専門コースに進んでも、消費者のニーズに対応するものづくり、販売方法を考える必要がある。3年ゼミでは実際にECで販売をするため、ターゲット、ブランドコンセプト、ペルソナを考えさせているが、Googleアナリティクスによるデータによる解析分析で自分たちの反省も行わっている。この点を強化していきたい。

3. 入学者受け入れについて

アパレル業界の構造と職種理解の必要性を問う意見があった。この内容について、私が高校訪問で模擬授業を実施している際に必ず入れている。ファッションという分野は高校生では店舗やECでの商品接点でしか経験がないが、実際にアパレル企業の中には様々な職種があり、それは大学の専門コースや科目にない分野も多い。14年間アパレル企業に勤務していた経験から、教育と現場との乖離がないように、1年必修科目「ファッションビジネス概論」では、現場の知識を指導するよう心がけている。しかし、2年以降になると忘れてしまうことが残念であるため、イノベーションコースでは2年「プレゼミ」であえて商品企画を担当する特別講師を招聘して企業の構造を理解するよう心がけている。

4. 今後の人材に必要なこと、 5. 画像生成AIの技術について

多くの企業がデジタルスキルを重視している。イノベーションコースでは全員に画像生成AI「Maison AI」を授業に取り入れているが、これは単に画像＝デザインを制作することだけでなく、ブランドコンセプトを構築するための軸をもって指導をすることを重視している。日々進化している生成AIだが、教員自らが最先端のスキルを修得して、授業内で新しいスキルを使えるように指導していく。また4年「ファッションテック論」では、メタバース領域にも取り組み、3次元空間のデジタルファッションを学生時代に体験できるように企業と取り組みを相談して授業を構築していきたい。

改善案

身につけるべき資質・能力についてほとんどの企業が大きく注視しているのがコミュニケーション能力とプレゼン能力であるが、主体性や変化対応力など、思考力や柔軟性といった能力も重視されている。

コミュニケーション能力とプレゼン能力を養うために必要なことのひとつは、まず自分が何を、どう考え、相手にどう伝えるかである。2、3年次は毎授業時にイメージデッサンを描き、それを皆の前でプレゼンテーションを行っており、繰り返しおこなうことで相手に自分の想いを伝える力が構築できると考える。自分のデザインや制作する作品について、担当者とディスカッションを繰り返し、他者の考え、意見を踏まえてフィードバックを重ねることにより、理解力を深める。主体的に自分で考え判断する力をつけるためにリサーチやサンプル制作など学生が主体で進める方法をとっている。また卒業企画（4年）においては、情報共有能力や協調性などの対人能力を養う取り組みとして、グループ制作を行っている。学生全員で制作する演目を決め、それぞれの作品についてディスカッションを行う。2、3年生に関しては同じテーマで作品を制作し、出来上がったものが各々に全く異なる作品となる事で「多様性」について学ぶ。

この様にシンプルではあるが、回数を重ねる事でコミュニケーション力やプレゼンテーション力、自主性、協調性が少しずつ身に付いてくるのが見え、これからも継続していきたい。学外研修では実務の経験をすることで、行動力や挑戦心が出てきている様子が見られ、今後さらに強化していきたい。

企業10社の回答から、以下の2点がとくに求められていることを感じました。

- ① コミュニケーション能力、マナー、主体性
- ② ファッションへの情熱

以上2つは私がスタイリストとして関係する企業からも一番多く聞こえてくることであり、また、教員の立場として、今の学生に足りないと感じていることでもあります。

スタイリング授業内での取り組みとしては

① に関して

- ・授業の始まりに起立して挨拶、授業終了時にも起立して挨拶、を実施しています。
- ※どの職種であっても挨拶は基本なので、日ごろから当たり前のこととして身につけさせることは重要と考えています。
- ・オムニバスの授業ではクラス全員と対面して「相手の魅力を発見する」ワークショップを行っています。
- ・2年後期、3年の授業では、ペアになって相手をスタイリングする、相手を撮影する、相手の持ち物であるシャツをリメイクする、といった授業を通して、真剣に相手と向き合う力を養っています。

【今後】引き続き、これらを行うのと並行して、各課題に関して、提出するだけでなく、授業内での「発表」「ディスカッション」の機会を積極的に取り入れてゆきたいと思います。

② に関して

- 漠然と「ファッションが好き」ではなく、どのような分野のどのようなタイプのファッションが好きかを具体的に自覚し、「自分の好き」を語れることは重要です。
- ・2年後期3年の授業では、時代ごとのファッションを学べる映像、あらゆるタイプの写真集やファッション雑誌を資料として、多種多彩なジャンルを知って、自分の好きな「方向性・世界観」を発見させ、レポート提出させています。
 - ・卒業制作は「好きな世界観」を構築する形での指導を行っています。

【今後】「目先だけの狭い世界」からの選択ではなく、「幅広い世界」からの選択としての「好き」を見つけられるように、学外演習のみならず、あらゆる人と出会い、様々なジャンルを知り、知識を得られるフィールドワーク的な授業を増やしてゆきたいと思います。

企業様に向けての改善案

1, 学生が身につけるべき資産。能力について

コミュニケーション能力を注視している企業が多い、ただ単純に学生同士のコミュニケーションだけではなく、対話能力、交渉力、統率力など範囲が広い。

授業の中で教えていくのは難しいが、対話の中からどう思考していくかを重視していく指導をしていく。

改善策：VMDでは、毎週、授業が始まる20分を学生とのコミュニケーションの時間にあてている。学生の話をよく聞き、指導するには難しい。交渉量力、統率力なども取り込んだ内容に深く入りこむ努力をするつもりです。

2, 基礎能力

ファッションの基礎は、服飾大学を卒業したのにこんなことも知らないと言われないように、授業時間内でかなり割いて教えています。

素材名、ディテール名、アイテム名など全ての基礎知識のテストを実施。

3, トレンドを生み出す力をつける

学生によるマーケットリサーチを毎週実施している。流行の色、スタイリング、アイテム、ヘアースタイル&カラー、ファッション雑貨など、市場を見て報告する授業を実施。

今、市場の流れがどうなっているのか自分の眼で情報を取り、発表する。

これがトレンド発掘能力に繋がると信じています。

-まとめ-

□コミュニケーション能力が必要ということを再認識しましたが、現代病の鬱などの病気にかかり、心を閉ざす学生も多くいます。学生と先生との関わり方が難しく、学生の力を伸ばす努力を惜しみません。

□時代の変化に対応するAIや3Dモデリングなども含め、VMDでも新たな時代へと進むはずですが、まだ遅れています。企業側ではAIモデルの広告や、店舗のデジタル化が進んでいます。対応するには、一般教養の中で学生にAIなどの授業を進めて頂けるのが、今のところ一番良い方向かと思われます。

担当している授業に直接言及した評価はなかったが、企業側の求める人材について小職の授業にも関わりのあるいくつかのキーワードが見られた。

- ① 「コミュニケーション能力」
- ② 「生成 AI、3D モデリングなどデジタル領域でのスキル」である。

***改善案**

小生が担当する「映像・メディア表現領域」での演習等でも上記のキーワードに関する演習指導は可能である。

来期はシラバスに上記のキーワードを記載し、それらの領域を意識して演習指導を行いたい。

具体的には、2年後期「メディア表現Ⅰ」及び3年前期「メディア表現Ⅱ」のシラバスに、「他者に理解してもらうための企画書/提案書の作成」、「デジタル動画編集ソフト演習」の項目を加え、講義/演習では学生がお互いのアイデアに対し意見を発表する場を設けたい。

特にデジタル領域については、最前線の現場で活躍するデジタルクリエイターをゲスト講師として招き、日々進化しているデジタルクリエイティブの現場を紹介/解説してもらう。

4. 入学者受け入れについて

今後のアパレルの人材育成に向けてどのような人材を受け入れるべきか、そのための方策について、以下のように様々なご意見をいただきました。

- ・ファッションに対する熱意や、この業界への希望、楽しみをしっかりと持ってくれる人材、またそれを育てることのできる人材の受け入れ。
- ・明確な職種に限定しないでファッションを仕事にしたいと思える人材。
- ・好きを追求できる人
- ・アパレル業界の発展に寄与でき、アパレル業界で長く就業したい意思の強い学生。
- ・ファッションに加えて、デジタル分野に興味を持つ人を牽引
- ・稼ぐ力。発信する力。を持っている、または備えている人材
- ・自分の将来像を描くことができ、そのために必要な技術、ノウハウを身につけて行こうとする前向きな方。
- ・主体的に行動できる方、好奇心旺盛な方、コミュニケーションに長けている方

本学で学びたいと思った理由の多くが、服を制作するのが好き、将来服飾関係の企業で働きたい、ファッションが好きなど、ほとんどがファッションに興味関心をもっている学生達です。従って本学に入学を希望する時点には、すでに上記のような企業の方々が受け入れるべき人材の要素を持っていると思います。

本学では、昨年度の入試より本学が求める人材をより発掘しやすいと同時に入学希望者にとっても自分を表現できる受験方式をいくつか増やすこととしました。今年度入試は、さらに改善して入試日程などにも工夫して実施することとしています。

本学のタグラインは「その好きを、かなえます。」としています。ファッションが好きから始まる学生達の未来が、本学の教育の中で醸成され将来アパレル企業で活躍できる人材となるように、頂いたご意見を参考に学生募集はもちろん教育にもより一層力を注いでいきたいと思っています。